

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)										
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標									
I-3-(3)-① 北九州 環境みらい学 習システ ムの推 進	1	④ ⑰	環境ミュージ アム管理運 営事業	環境学 習課	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等と結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行う。	アンケート調査における環境活動を行う市民の割合	65.7% (H23年度)	目標	85.0 %	85.0 %	85.0 %	95.0% (R12年度)	継続	3,620	3,120	その他	7,150	順調	「北九州環境みらい学習システム『ドコエコ!』推進事業は、「環境ミュージアム管理運営事業」に統合して引き続き実施する。 多世代の市民が、有意義な学習ができるよう、SNSやホームページ等の様々な媒体をより充実させる。 また、効果的な情報発信に取り組むため、冊子の発行部数を見直し、事業費は減額した。	順調	持続可能な社会づくりを進めるため、多世代の市民が、有意義な学習ができるよう、SNSやホームページ等の様々な媒体を充実させ、より効果的な情報発信に取り組む。								
							実績	66.9 %																					
							達成率	78.7 %																					
I-3-(3)-② 環境人材のスキル アップ と活用	2	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージ アム及び北九 州エコハウス 維持管理業務	環境学 習課	北九州市の公害克服の歴史を伝えるとともに、世界の環境首都を目指して市民の環境力を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営、及び様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数	80回 (H26年度)	目標	360 回	360 回	360 回	360回 (R5年度)	継続	77,087	77,144	維持	9,225	やや遅れ	環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーターや関係団体及び近隣施設等との協働を進めるなど、活動の更なる強化を図り、引き続き地域の環境リーダー育成に取り組む。また、オンライン講座やイベントを開催するとともに、改修したカーボンニュートラル展示等を活用した情報発信をSNSやホームページ等を使って行い来館者増を図る。	順調	地域における環境リーダーの育成にむけて、環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーターや関係団体及び近隣施設等との協働を進めるなど、活動の更なる強化を図るとともに、現存のコンテンツの充実を図りオンラインイベントや講座等を開催する。 また、引き続き、企業や団体などへ「検定応援団」等を活用した積極的なPRを行い、環境首都検定の受検者増加に取り組む。								
							実績	249 回																					
							達成率	69.2 %																					
						環境ミュージアム利用者数（単年度）	134,124人 (H26年度)	目標	130,000 人	130,000 人	130,000 人											130,000人 (R5年度)	継続	13,567	13,425	維持	9,975	順調	市民全体が環境に関心を持つきっかけとなるよう、引き続き、環境首都検定の受検者増加に向けて、企業や団体などへ「検定応援団」等を活用した積極的なPRを行う。
							実績	42,873 人																					
							達成率	33.0 %																					
		目標	5,500 人	5,500 人	5,500 人	5,500人 (R5年度)	継続	13,567	13,425	維持	9,975	順調	市民全体が環境に関心を持つきっかけとなるよう、引き続き、環境首都検定の受検者増加に向けて、企業や団体などへ「検定応援団」等を活用した積極的なPRを行う。																
	実績	5,502 人																											
	達成率	100.0 %																											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)							予算額 (千円)
I-3-(3)-③ ESDの 推進	4	④ ⑰	ESD活動支援 事業	環境 学習 課	<p>持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。</p> <p>具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。</p>	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R5年度)	継続	20,179	19,913	維持	16,950	順調	持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。	順調	持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。
							実績	80.2 %												
							達成率	89.1 %												
II-3-(4)-② 国際協力・交流の 推進	5	⑫ ⑰	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	<p>途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施する。</p> <p>また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施する。更には市内企業や国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指す。</p>	戦略的環境国際協力事業の件数(累計)	目標	14 件	15 件	15 件	15件 (R5年度)	継続	3,000	3,000	維持	6,650	順調	国や国際機関等の補助金も活用しながら、引き続き事業を推進する。	順調	KITAやJICAなど関係機関と連携し、国や国際機関等の補助金も活用しながら、引き続き研修受け入れや派遣指導、環境に関する技術・社会システムの輸出など、環境国際協力を推進する。
							実績	14 件												
							達成率	100.0 %												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
6	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮		<新>環境国際推進事業	環境国際戦略課	アジアカーボンニュートラルセンターを中核として、環境に関する多様な技術や社会システム等を海外に輸出することで、地域経済の活性化を推進する。また、環境人材育成に係る研修の誘致活動や研修の実施を通じて、アジア諸都市における更なるビジネス案件の創出を目指す。	アジア地域でのCO2排出量の削減	目標				単年度目標設定なし	—	—	23,180	—	66,650	—		
							実績	本市CO2排出量1,835万t (H25年度)			H25年度比75%削減 (R12年度)								
							達成率												
						アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数 (単年度)	目標			460 人	460人 (毎年度)								
							実績	1,209人 (H26年度)											
							達成率												
III-1-(1)-③ まち美化活動の拡充	7	⑫ ⑭ ⑮	まち美化等啓発事業	業務課	北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例（まち美化条例）に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、まち美化事業を実施する。 市民の環境美化に対する関心及びモラル・マナーの向上を図り、「世界の環境首都」に相応しい清潔で美しいまちづくりを推進する。	まち美化ボランティア清掃参加者数 (単年度) ※指標廃止	目標	138,000 人	138,000 人		138,000人 (毎年度)	継続	3,578	3,444	維持	3,075	やや遅れ		
							実績	131,314人 (H28年度)											
							達成率	46.4 %											
						まち美化ボランティア清掃参加者数 (H29～R3年度の平均値) ※指標追加	目標			89,000 人	89,000人 (毎年度)								
							実績	76,620人 (H29～R3年度の平均値)											
							達成率												
						アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合	目標		60 %	60 %	60 %	60% (毎年度)							
							実績	47% (H28年度)	41.6 %										
							達成率		69.3 %										

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
IV-1-(1)-④ 地元製品・ サービスの利 活用の推 進	8	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サプ ライチェーン支 援事業	環境イ ノベー ション支 援課	市内企業に対 し、脱炭素経営 を促すため、実 際の成功事例の 紹介などを行う セミナーを実施 する。また、市 内企業の環境に 配慮した製品や 技術、サービス から「北九州エ コプレミアム」 を選定し、広く PRすることで、 市内環境関連 産業の活性化を 推進する。	北九州エコプ レミアム選定件 数(単年度)	9件 累計190 件(H26年 度)	目標	5 件	5 件	累計240 件 (R6年 度)	—	9,654	4,354	その他	5,825	—	「環境イノベー ション促進事 業」の内、事業 の役割を終えた 「環境イノベー ション人材育成 事業」を廃止し、 「脱炭素サプ ライチェーン支 援事業」を継続 して実施する。 新たに、市内 企業に対し、 脱炭素経営を 促すため、実 際の成功事例の 紹介などを行 うセミナーを 実施する。	「環境イノベー ション促進事 業」の内、事業 の役割を終えた 「環境イノベー ション人材育成 事業」を廃止し、 「脱炭素サプ ライチェーン支 援事業」を継続 して実施する。 新たに、市内 企業に対し、 脱炭素経営を 促すため、実 際の成功事例の 紹介などを行 うセミナーを 実施する。
						エコタウン事 業による投資額 (単年度)	9億円 (H26年 度)	目標	7 億 円	7 億 円									
V-1-(4)-② 再生可能エ ネルギー・ 基幹エネ ルギーの 創出拠点の 形成	9	⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	北九州市風 力発電人材育 成事業	再生可 能エネ ルギー 導入推 進課	風力発電関連 産業の総合拠 点として、その 機能を十分に 発揮するには、 人材の「育成」 と「確保」が 必要である。 このため、「北 九州市洋上風 力キャンプ」を 実施し、市内 外の学生等の 関心を高め育 成を図るとも に、「北九州市 風力発電人材 育成連絡会」 を通じた産 学官の連携に よる人材の確 保を目指す。	人材育成に関 わる関連企業、 教育機関を含 めた会議等の 実施(累計)	目標	9 回	24 回	39 回	54回 (R3~R6 年度)	継続	45,000	36,000	減額	8,150	大変 順調	再エネに関 する人材育成 について、令 和4年度から 開始した「北 九州市洋上風 力キャンプ× SDGs」に引 き続き取り組 む。また、学 校等関係団体 への呼びかけ を強化し、参 加者の増加に 取り組む。	順調 エネルギー 産業の拠点化 に向けて、令 和4年度から 開始した「北 九州市洋上風 力キャンプ× SDGs」に引 き続き取り組 むとともに、「 北九州市風 力発電人材育 成連絡会」と も連携しなが ら、人材の育 成、確保に取 り組む。また、 水素エネルギー 導入での地域 企業の新規事 業展開や企業 誘致による地 域産業振興・ 雇用創出を図 る。
							実績	21 回											
							達成率	233.3 %											

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標	
10	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬		水素拠点化推 進事業	グリーン成 長推 進課	<p>企業単独での取組が困難かつイノベーションが必要な、水素（合成メタン・アンモニアを含む）やCO2の回収・利用・貯蔵のプロジェクトを支援する体制の構築に向け、ステークホルダーが参画する組織体を構築し、個別プロジェクト形成、国プロ獲得支援及び国への提言等を行うこと、製造業の脱炭素化に向けた投資を促す。また、FS・技術開発支援により企業の取組を加速させる。</p>	北九州水素タウン 来訪者数（単年 度）	—	目標 500 人			500人 (R3年度 まで毎 年度)								<p>先導的な取組は継続しつつ、これまでに得られた知見を基に水素エネルギー導入での地域企業の新規事業展開や企業誘致による地域産業振興・雇用創出を図る。</p> <p>また、「本市の水素に係る先導的な取組」及び「水素エネルギーが便利で身近なものであること」を市民に理解してもらえるよう啓発に努め、水素がエネルギーとして社会に浸透することを旨とする。</p> <p>産学官が連携し水素拠点の形成に向けた計画を検討し、本市の経済を支える製造業が本市で脱炭素化を進めながら事業を継続できる基盤づくりに取り組む。</p> <p>【指標追加の理由】 地球温暖化対策実行計画に基づき、水素の需要量を指標に追加。</p>		
					水素需要量 ※指標追加	0+ (R4年 度)		目標 —			5,700+ (R12年 度)	拡大	17,500	37,100	増額	10,150	遅れ				
					事業可能性調査実 施件数	—		目標 —		2 件	2 件										
								実績 —													
								達成率 —													
V-1- (4)-③ 安定・ 安価で 賢いエ ネルギー 網の 構築	11	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬	北九州市風力 発電人材育成 事業	再生 可能 エネ ルギー 導入 推進 課	<p>風力発電関連産業の総合拠点として、その機能を十分に発揮するには、人材の「育成」と「確保」が必要である。</p> <p>このため、「北九州市洋上風力キャンプ」を実施し、市内外の学生等の関心を高め育成を図るとともに、「北九州市風力発電人材育成連絡会」を通じた産学官の連携による人材の確保を目指す。</p>	人材育成に関わる 関連企業、教育機 関を含めた会議等 の実施（累計）	—	目標 9 回	24 回	39 回	54回 (R3~R6 年度)	継続	45,000	36,000	減額	8,150	大変 順調	<p>再エネに関する人材育成について、令和4年度から開始した「北九州市洋上風力キャンプ×SDGs」に引き続き取り組む。</p> <p>また、学校等関係団体への呼びかけを強化し、参加者の増加に取り組む。</p>	大変 順調	<p>安定したエネルギー基盤の構築に向けて、令和4年度から開始した「北九州市洋上風力キャンプ×SDGs」に引き続き取り組むとともに、「北九州市風力発電人材育成連絡会」とも連携しながら、人材の育成、確保に取り組む。</p>	
								実績 21 回													
								達成率 233.3 %													

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善													
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)						
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標					
VI-1-(1)-① 市民の力で環境力を高める 仕組みづくり	12	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮	市民環境力支援事業	環境学習課	市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。	エコライフステージ参加者数（単年度）	142.4万人 (H24年度)	目標 150万人以上 実績 30万人 達成率 20.0%	150万人以上	150万人以上	150万人以上	150万人以上 (R5年度)	継続	12,207	12,007	維持	9,475	遅れ	市民による環境活動をさらに広げるため、新たなイベント開催方法などの検討や環境活動団体の支援に加え、WEB等を活用した取組の強化、SNS等での情報発信を積極的に行う。	遅れ	市民環境力を向上し、持続可能な社会を実現するため、企業、NPO等の一層の協力を得ながら、従来イベントだけでなくオンライン等も活用し、市内外の幅広い世代への普及啓発に取り組む。 また、市民にエコなライフスタイルを浸透させる効果的な事業のあり方を検討しつつ、経費削減についても最大限取り組む。				
VI-1-(1)-② 地域コミュニティ活動の支援	13	⑫	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	市民1人あたりの年間古紙回収量	50.1kg (H21年度)	目標 単年度目標設定なし 実績 30.4kg 達成率 —	第2期循環社会計画に準拠	古紙回収に取り組みまちづくり協議会数	132団体 (H26年度)	目標 137団体 実績 137団体 達成率 100.0%	137団体	137団体	137団体	全137団体の参加 (毎年度)	継続	208,944	190,050	減額	14,150	順調	家庭ごみとして出された古紙の分別・リサイクルについて、積極的に広報活動を行い、回収強化を図る。集団資源回収登録団体への啓発のばり旗の配布や、保管庫の新規設置及び経年劣化による建て替えを推進する。	順調	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、家庭ごみとして出された古紙の分別・リサイクルの広報活動を行うなど、回収の強化に取り組む。
VI-1-(1)-③ 地域の環境特性を活かした取組の推進	14	⑫	地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標 単年度目標設定なし 実績 462g 達成率 —	440g以下 (R7年度)	市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標 86.9% 実績 85.7% 達成率 98.6%	86.9%	86.9%	86.9%	86.9% (毎年度)	継続	9,405	9,405	維持	4,575	順調	廃食用油の回収拠点を拡大し、回収量の拡大を図る。剪定枝回収については、近接地域での日程を見直ししながら、回収体制の効率化を図る。	順調	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、地域団体等の参加数の増減にあわせて、回収・リサイクル体制の見直し、効率化を図る。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)							予算額 (千円)			
VI-1- (2)-① 交流の 場づくりと連 携の強 化	15	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支 援事業	環境学 習課	市民環境力の持 続的発展を目指 し、環境モデル都 市を推進する活動 への支援や、市 民・NPO、事業者な ど地域社会を構成 する各主体が、情 報を共有し、新た な取組を生み出 し、発信・啓発す る北九州エコライ フステージ事業な どを行う。	エコライフステー ジ参加者数（単年 度）	142.4万 人 (H24年 度)	目標 150万人 以上	実績 30 万 人	達成率 20.0 %	150万人 以上	150万人 以上	150万人 以上	継続	12,207	12,007	維持	9,475	遅れ	市民による環境活動をさら に広げるため、新たなイベン ト開催方法などの検討や環境 活動団体の支援に加え、WEB 等を活用した取組の強化、 SNS等での情報発信を積極的 に行う。		市民環境力を向上し、持続 可能な社会を実現するため、 企業、NPO等の一層の協力を 得ながら、従来イベントだけ でなくオンライン等も活用 し、市内外の幅広い世代への 普及啓発に取り組む。また、 市民にエコなライフスタイル を浸透させる効果的な事業の あり方を検討しつつ、経費削 減についても最大限取り組 む。	
	16	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージ アム及び北九 州エコハウス 維持管理業務	環境学 習課	北九州市の公害 克服の歴史を伝え るとともに、世界 の環境首都を目指 して市民の環境力 を高めるための環 境学習・環境活 動・環境情報の総 合拠点である「環 境ミュージアム」 及び家庭での省エ ネ型のライフス タイルを提案する 「北九州エコハウ ス」等の管理運 営、及び様々なイ ベント、企画等 により、環境学習 や環境活動の場を 提供するもの。	環境学習サポー ターによる出張 ミュージアム回数	80回 (H26年 度)	目標 360 回	実績 249 回	達成率 69.2 %	360回 (R5年 度)	360回	360回	360回	継続	77,087	77,144	維持	9,225	やや 遅れ	環境ミュージアムスタッ フ・環境学習サポーターや関 係団体及び近隣施設等との協 働を進めるなど、活動の更なる 強化を図り、引き続き地域 の環境リーダー育成に取り組 む。また、オンライン講座や イベントを開催するととも に、改修したカーボンニュ ートラル展示等を活用した情報 発信をSNSやホームページ等 を使って行い来館者増を図 る。	地域における環境リーダ ーの育成において、環境ミュ ージアムスタッフ・環境学習サ ポーターや関係団体及び近隣 施設等との協働を進めるな ど、活動の更なる強化を図 るとともに、現存のコンテン ツの充実を図りオンラインイ ベントや講座等を開催する。	
					環境ミュージアム 利用者数（単年 度）	134,124 人 (H26年 度)	目標 130,000 人	実績 42,873 人	達成率 33.0 %	130,000 人 (R5年 度)	130,000 人	130,000 人	130,000 人										

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)							予算額 (千円)
VI-1-(2)-② あらゆる主体による環境政策への参加の推進	17	④ ⑭	ESD活動支援事業	環境学習課	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。 具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方を変えていくづくり・学びあいの場づくりを進める。	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R5年度)	継続	20,179	19,913	維持	16,950	順調	持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。	順調	持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるよう、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。 また、引き続き、環境首都検定の受検者増加に向けて、企業や団体などへ「検定応援団」等を活用した積極的なPRを行い、市民全体が環境に関心を持つきっかけとなることを目指す。
							実績	80.2 %												
VI-1-(2)-③ 環境情報の収集・整備・提供	18	④	環境人財育成事業	環境学習課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	目標	5,500 人	5,500 人	5,500 人	5,500人 (R5年度)	継続	13,567	13,425	維持	9,975	順調	環境首都検定の受検者増加に向けて、引き続き企業や多くの市民が集まる会合などで、パンフレット等を活用した積極的なPRを行い、市民全体が環境に関心を持つきっかけとなることを目指す。	順調	環境マスケットキャラクター「ていたん」を活用し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を確認しながら、他部局のイベント等でもPR活動を行い、環境への意識向上を図る。 また、あらゆる世代の環境への意識を向上させるため、教育施設に「ていたん」を派遣するなど、取組を強化する。
							実績	5,502 人												
VI-1-(2)-③ 環境情報の収集・整備・提供	19	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境施策広報事業	環境学習課	世界の環境首都を目指す北九州市の環境施策について、環境マスケットキャラクター「ていたん」を活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図る。	アンケート調査における環境マスケットキャラクターの認知度	目標	65 %	65 %	65 %	65.0% (R5年度)	継続	9,590	9,370	維持	8,700	順調	環境施策について、SNSを活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図るなど、より一層の活用促進を図る。	順調	環境マスケットキャラクター「ていたん」を活用し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を確認しながら、他部局のイベント等でもPR活動を行い、環境への意識向上を図る。 また、あらゆる世代の環境への意識を向上させるため、教育施設に「ていたん」を派遣するなど、取組を強化する。
							実績	66.5 %												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)						
VI-2-(2)-① 市民・ 企業な どによ るCO2 削減	20	⑦ ⑧	北九州市役所 環境・エネ ルギープロ ジェクト推 進事業	再生 可能 エネ ルギ ー導 入推 進課	環境モデル都市 としての市役所の 率先垂範を实践 し、省エネ法及び 温対法の規制へ対 応するため、平成 23年度から実施し ている本事業によ り市役所の環境・ エネルギー対策を 行い、更なる省エ ネ・節電を推進す る。	市有施設のエネル ギー消費原単位の 改善	H22年度 総エネル ギー使用 量実績 (原油換 算 89,599k l)	目標 79,743 kl	実績 78,021 kl	達成率 97.8 %	R12年度 までに H22年度 比 20%減 (エネル ギー使 用量原 油換算 71,679k l)	継続	7,880	7,880	維持	5,575	順調	順調	引き続き、CO2削減・地域 経済の成長、脱炭素化を推進 するための取組を継続する。
						省エネ投資額 (千円) ※中期目標改訂	336,998 千円 (H28年 度)	目標 105,000 千円	実績 50,338 千円	達成率 47.9 %	累計 1,390,0 00千円 (H28~ R5年度)	継続	42,000	39,000	減額	4,825	やや 遅れ	実績報告期間を3年から1年 に短縮する等、補助要件を緩 和し、事業者の負担の軽減を 図り、省エネの取組を促進す る。 【中期目標の変更内容】 成果指標について、目標期 間が到来したため、見直した もの。	
21	⑦ ⑧ ⑨ ⑩	中小企業の競 争力を生み出 す脱炭素化推 進事業	再生 可能 エネ ルギ ー導 入推 進課	再生可能エネル ギーの活用によ り、深刻化する気 候変動問題への対 応と地域活性化へ の貢献を率先的に 進め、市内の使用 電力を100%再エ ネで賄う北九州市 版RE100を図るため、 再エネ導入や省エ ネ方法等の最適化 について、実現可 能性を調査し検討 する。 さらに、低炭素 社会の実現に向 け、市内中小企業 へRE100を促し、自 家消費型太陽光発 電設備や蓄電池の 導入支援する。ま た、省エネ実践行 動の更なる推進、 最先端の省エネ機 器やエネルギーマ ネジメントシステ ムの導入支援を行 う。 当事業により環 境に配慮しつつ中 小企業の競争力を 高める。	補助金活用件数 (件) ※中期目標改訂	61件 (H28年 度)	目標 14 件	実績 8 件	達成率 57.1 %	12 件	15 件	累計 240件 (H28~ R5年度)							

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)						
22	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰		地球温暖化対 策推進事業	グ リー ン 成 長 推 進 課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	温室効果ガス排出量の削減(万t) ※中期目標改訂	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	2030年 度温室 効果ガ ス排出 量2013 年度比 47%減	継続	7,846	7,533	維持	3,650	順調	市民や事業所の自主的な行動を促し、ライフスタイルの変革を後押しするとともに、環境省の取組と連携した様々な啓発事業を展開し、本市における地球温暖化対策を推進する。 【中期目標の変更内容】 温室効果ガス排出量について、算定基礎としている各種統計データの遡及修正、使用するデータの変更等により、過年度の値が変更される場合があることから、削減比率だけで表示することとしたもの。	
							実績	—											
23	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰		KitaQ Zero Carbon関連プ ロジェクト創 出事業	グ リー ン 成 長 推 進 課	KitaQ Zero Carbonプロジェクトの更なる普及拡大に向けて、学生が中心となった市民参加型啓発イベント等の企画・実施を、プロジェクトパートナーとの連携促進も含めて一体的にサポートすることで、Z世代への訴求力を高め、次世代のリーダーを育成するとともに、民間主導による自発的なプロジェクトの創出を促進するもの。	温室効果ガス排出量の削減(万t) ※中期目標改訂	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	2030年 度温室 効果ガ ス排出 量2013 年度比 47%減	拡大	3,500	7,500	増額	8,150	やや遅れ	温室効果ガス排出削減目標を着実に達成するためには、市民一体となった取組が重要である。 令和4年1月にKitaQ Zero Carbonプロジェクトを始動して以降、学生や事業者との連携強化に向けた基盤を整備してきた。 令和5年度は、これらの体制を基盤に、具体的なアクションを実践できる場を、外部リソースを最大限活用して数多く創出する。 【中期目標の変更内容】 温室効果ガス排出量について、算定基礎としている各種統計データの遡及修正、使用するデータの変更等により、過年度の値が変更される場合があることから、削減比率だけで表示することとしたもの。	
							実績	—											

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)								
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)			予算額 (千円)	事業 評価	局施策 評価									
24	⑦ ⑧ ⑨ ⑩		脱炭素社会の 実現に向けた 再エネ100% 北九州モデル 推進事業	再生 可能 エネ ルギ ー 導 入 推 進 課	脱炭素社会の実 現に向けて、 ・公共施設群及び エコタウンの再エ ネ100%電力化 ・EVを活用した自 律型エネルギー実 証 ・北九州都市圏域 への再エネ普及促 進 ・バイオマスエネ ルギー等活用推進 ・市有施設のZEB化 に取り組む。	PV・風力等再エネ 導入量 (kW・累 計)	目標		512,980 kW	500,917 kW		継続	1,052,000	461,700	減額	18,950	—										
							実績				756,946 kW (R12年 度)																
							達成率																				
						CO2削減量 (+)	目標		496,000 +	485,000 +										—	—	103,000	—	18,950	—		
							実績				累計 3,113,7 43+CO2 (R4~ R12年 度)																
							達成率																				
25	⑦ ⑧ ⑨ ⑩		<新>市内事 業者等への再 エネ100%北 九州モデル普 及推進事業	再生 可能 エネ ルギ ー 導 入 推 進 課	環境省が令和5年 度に実施する予定 の「地域脱炭素移 行・再エネ推進交 付金」の重点対策 加速化事業を活用 しつつ、脱炭素先 行地域における第 三者所有方式によ る太陽光発電設備 や省エネ機器の設 置（再エネ100%北 九州モデル）を市 内のスーパーマー ケット、ドラッグ ストア、脱炭素電 力認定企業等に横 展開する。	PV・風力等再エネ 導入量 (kW・累 計)	目標			500,917 kW		—	—	103,000	—	18,950	—										
							実績				756,946 kW (R12年 度)																
							達成率																				
						CO2削減量 (+)	目標			485,000 +										—	—	103,000	—	18,950	—		
							実績				累計 3,113,7 43+CO2 (R4~ R12年 度)																
							達成率																				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
VI-2-(2)-② 低炭素 社会に 貢献す る技術 開発、 製品・ サービス 提供 拠点の 形成	26	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サプライチェーン支援事業	環境イノベーション支援課	市内企業に対し、脱炭素経営を促すため、実際の成功事例の紹介などを行うセミナーを実施する。また、市内企業の環境に配慮した製品や技術、サービスから「北九州エコプレミアム」を選定し、広くPRすることで、市内環境関連産業の活性化を推進する。	北九州エコプレミアム選定件数 (単年度)	目標		5 件	5 件	累計240 件 (R6年 度)	—	9,654	4,354	その他	5,825	—	「環境イノベーション促進事業」の内、事業の役割を終えた「環境イノベーション人材育成事業」を廃止し、「脱炭素サプライチェーン支援事業」を実施する。 市内企業に対し、脱炭素経営を促すため、実際の成功事例の紹介などを行うセミナーを実施する。	順調	低炭素化に寄与する技術開発や製品・サービスの提供拠点の形成に向け、脱炭素化に向けたサプライチェーンの構築や環境未来開発助成を引き続き実施する。
							実績													
							達成率													
						エコタウン事業による投資額（単年度）	目標		7 億円	7 億円	7億円 (毎年 度)	—	9,654	4,354	その他	5,825	—	「環境イノベーション促進事業」の内、事業の役割を終えた「環境イノベーション人材育成事業」を廃止し、「脱炭素サプライチェーン支援事業」を実施する。 市内企業に対し、脱炭素経営を促すため、実際の成功事例の紹介などを行うセミナーを実施する。	順調	低炭素化に寄与する技術開発や製品・サービスの提供拠点の形成に向け、脱炭素化に向けたサプライチェーンの構築や環境未来開発助成を引き続き実施する。
							実績													
							達成率													
本助成事業で助成した研究開発の事業化数（累計）	目標		38 件	39 件	40 件	40件 (R5年 度 まで)	継続	50,000	48,000	維持	4,595	順調	環境未来技術開発助成を通じた次世代資源循環型産業拠点形成は、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つであり、今後、更に市内企業等支援に注力していく。	順調	環境未来技術開発助成を通じた次世代資源循環型産業拠点形成は、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つであり、今後、更に市内企業等支援に注力していく。					
	実績		40 件																	
	達成率		105.3 %																	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)						
VI-3-(1)-① 市民環境力による3R活動の推進	28	12	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	市民1人あたりの年間古紙回収量	50.1kg (H21年度)	目標	単年度目標設定なし			第2期循環社会計画に準拠							
							実績	30.4 kg											
							達成率	—											
					古紙回収に取り組みまちづくり協議会数	132団体 (H26年度)	目標	137 団体	137 団体	137 団体	全137団体の参加(毎年度)	継続	208,944	190,050	減額	14,150	順調	家庭ごみとして出された古紙の分別・リサイクルについて、積極的に広報活動を行い、回収強化を図る。集団資源回収登録団体への啓発のぼり旗の配布や、保管庫の新規設置及び経年劣化による建て替えを推進。	
						実績	137 団体												
						達成率	100.0 %												
					一般廃棄物のリサイクル率	28.0% (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	30%以上 (R7年度)								
						実績	27.9 %												
						達成率	—												
29	12		地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)	継続	9,405	9,405	維持	4,575	順調	廃食用油の回収拠点を拡大し、回収量の拡大を図る。剪定枝回収については、近接地域での日程を見直しながら、回収体制の効率化を図る。
							実績	462 g											
							達成率	—											
					市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標	86.9 %	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)								
						実績	85.7 %												
						達成率	98.6 %												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
30	12		広げよう食品ロス・生ごみ削減の環づくり事業	循環社会推進課	食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動の普及・啓発や、生ごみリサイクル講座等の実施によって、生ごみの減量化・資源化を推進する。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 462 g	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)	継続	7,800	7,800	維持	8,825	順調	市民や事業者による食品ロス削減の取組、フードドライブの推進、「残しま宣言」運動の普及・啓発のより一層の充実を図る。 より多くの市民が、3R意識を醸成できるよう、リデュースクッキング講座や生ごみリサイクル講座等の未実施地域などを対象に、講座実施の働きかけを行う。	
						市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標 86.9 %	実績 85.7 %	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	86.9% (毎年度)								達成率 98.6 %
						市民アンケート調査における食品ロス削減の取組実施率	58.3% (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	80%以上 (R12年度)								達成率
31	12		<新>事業系ごみ対策事業	循環社会推進課	事業所に対する一般廃棄物の減量化等の推進を図る。	一般廃棄物のリサイクル率	28.0% (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	30%以上 (R7年度)	—	—	1,230	—	7,825	—	事業系ごみ対策を行うため、事業所への個別訪問によるごみの分別等についての啓発・指導や、焼却工場での搬入状況の確認強化などに取り組む。		
32	9 12 13 14 17		北九州市プラスチックスマート推進事業	循環社会推進課	国の動向と歩調を合わせながら、これまでの取り組みに加え、更なるプラスチックごみの資源循環に向けた施策を推進する。	プラスチック製容器包装の分別協力率	44.4% (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 45.6 %	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	60%以上 (R12年度)	拡大	38,000	30,000	減額	13,075	順調	令和5年10月開始予定のプラスチック資源一括回収に伴う、分別方法の変更等については、様々な媒体を活用して、市民が分かりやすい広報を徹底して行う。 不要な使い捨てプラスチックごみの削減に向けた啓発活動や、家庭ごみに含まれるプラスチック資源の分別・リサイクル促進による回収強化などの取組についても、継続して実施していく。	
						市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)								達成率

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
VI-3-(1)-② 適正な 廃棄物 の処理	33	⑪ ⑫	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画推進事業	循環社会推進課	本市では、第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画（本市の一般廃棄物処理計画）を策定し、ごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っている。 本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行う。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以下 (R7年度)	継続	1,049	1,046	維持	2,325	順調	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、新規分別回収の開始に併せ、より分かりやすいごみ分別の周知・啓発をするなど、更なるごみの減量化・資源化に資する施策を実施する。	順調	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、循環型社会の構築に向けた取組を推進していく。
							実績	462 g												
VI-3-(1)-③ 産業廃棄物排出量の減量化	34	③ ⑥ ⑪ ⑫	産業廃棄物処理推進事業	産業廃棄物対策課	産業廃棄物の適正処理・3Rを推進するため、優れた排出事業者・処理業者への認定やインセンティブ付与、排出・処理動向や将来見通しの分析・公表、産業廃棄物3R・適正処理講習会等を活用した適正処理・3R情報の普及啓発を実施する。	優良産業処理業者の認定件数（単年度）	目標	2 件	2 件	2 件	2件 (R1年度以降毎年度)	継続	14,871	14,105	減額	615	順調	産廃処理事業者及び排出事業者に対して、適正処理や産業廃棄物の減量化をはじめとした3Rについて、引き続き啓発を行う。 また、認定制度の実施を通じて優良な事業者の育成を進めるとともに優良認定事業者の取組を広く周知していくことで他者への横展開を図り産業廃棄物処理業界の活性化を推進する。 なお、令和5年度予算編成において、令和4年度までの委託料を精査し、合理化を図った。	順調	啓発や認定制度の実施を通じて、優良な産廃処理業者、排出事業者の育成を進め、さらに優良認定事業者の取組を広く周知していくことで産業廃棄物処理業界の活性化、廃棄物の減量化・資源化を推進する。
							実績	3 件												
VI-3-(2)-① 次世代資源循環型産業拠点の形成	35	⑦ ⑧ ⑨ ⑫ ⑬	北九州エコタウン事業	環境イノベーション支援課	資源循環型社会の実現に向けて、環境産業の集積化と環境・エネルギー技術開発の拠点化を図るため、企業支援や国等関係機関との協議のほか、貸付用地の維持管理を行う。	エコタウン事業による投資額（単年度）	目標	7 億円	7 億円	7 億円	7億円 (毎年度)	継続	22,166	22,060	維持	4,575	大変順調	北九州エコタウン全体の更なる発展を目指し、引き続きリサイクル拠点の形成を図っていく。	大変順調	再エネ大量導入において課題となる、太陽光パネルのリサイクル、車載用蓄電池のリユース・リサイクルのシステムの構築等を実証から事業化まで支援する。
							実績	15 億円												
VI-3-(2)-① 次世代資源循環型産業拠点の形成	35	⑦ ⑧ ⑨ ⑫ ⑬	北九州エコタウン事業	環境イノベーション支援課	資源循環型社会の実現に向けて、環境産業の集積化と環境・エネルギー技術開発の拠点化を図るため、企業支援や国等関係機関との協議のほか、貸付用地の維持管理を行う。	エコタウン視察者数（単年度）	目標	100,000 人	100,000 人	100,000 人	10万人 (毎年度)	継続	22,166	22,060	維持	4,575	大変順調	北九州エコタウン全体の更なる発展を目指し、引き続きリサイクル拠点の形成を図っていく。	大変順調	再エネ大量導入において課題となる、太陽光パネルのリサイクル、車載用蓄電池のリユース・リサイクルのシステムの構築等を実証から事業化まで支援する。
							実績	40,032 人												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
36		⑦ ⑧ ⑨ ⑫	<新>蓄電池のリユース・リサイクルシステム構築事業	環境イノベーション支援課	カーボンニュートラルのキーテクノロジーである蓄電池産業のさらなる集積を図るため、車載用蓄電池のリユース・リサイクル拠点化を図るとともに、そのトータルコストを低減する仕組みを構築する。 また、EV電池を定置型蓄電池として活用するリユースや、第三者所有方式による蓄電池利用システムなど蓄電池の活用を全国に先駆けて推進していくもの。	策定した計画に基づき設定予定												カーボンニュートラルのキーテクノロジーである蓄電池産業のさらなる集積を図るため、車載用蓄電池のリユース・リサイクル拠点化を図るとともに、そのトータルコストを低減する仕組みを構築する。 また、EV電池を定置型蓄電池として活用するリユースや、第三者所有方式による蓄電池利用システムなど蓄電池の活用を全国に先駆けて推進していくもの。	
VI-3-(2)-② 環境分野における技術開発の促進	37	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術開発助成事業	環境イノベーション支援課	新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。	本助成事業で助成した研究開発の事業化数（累計）	27件 (H26年度)	38 件	39 件	40 件	40件 (R5年度まで)	継続	50,000	48,000	維持	4,595	順調	環境未来技術開発助成を通じた次世代資源循環型産業拠点形成は、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つであり、今後、更に市内企業等支援に注力していく。	環境未来技術開発助成を通じた次世代資源循環型産業拠点形成は、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つであり、今後、更に市内企業等支援に注力していく。
VI-4-(1)-① 多様な自然環境・生物多様性の保全	38	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	657,903本 (H27年度)	904,000 本	937,000 本	970,000 本	累計100万本植樹 (R6年度)	継続	14,013	12,504	減額	16,300	順調	自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠である。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行いながら、継続して市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。なお、市民との協働による事業の効率化を図り、一部取組のコスト削減を行った。 また、COP15や次期生物多様性国家戦略の策定など国内外の動きを踏まえ、本市戦略の改訂作業に着手する。	多様な自然環境・生物多様性の保全を行うため、市民・NPO、事業者等による自然環境保全活動を推進し、希少種保全や外来種対策、生態系の保全に向けた取組を進めていく。
					自然環境保全活動参加者数（イベント等の延べ参加者数）	2,000人 (毎年度)	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)									
								目標											
								実績											
								達成率											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)										
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)			予算額 (千円)	事業 評価	局施策 評価											
VI-4-(1)-② 身近に自然を感じる都市づくり	39	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	目標	904,000 本	937,000 本	970,000 本	累計100万本植樹(R6年度)	継続	14,013	12,504	減額	16,300	順調	自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠である。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行いながら、継続して市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。なお、市民との協働による事業の効率化を図り、一部取組のコスト削減を行った。 また、COP15や次期生物多様性国家戦略の策定など国内外の動きを踏まえ、本市戦略の改訂作業に着手する。	順調	多様な自然環境・生物多様性の保全を行うため、市民・NPO、事業者等による自然環境保全活動を推進し、希少種保全や外来種対策、生態系の保全に向けた取組を進めていく。									
							実績	750,223 本																					
							達成率	83.0 %																					
						自然環境保全活動参加者数（イベント等の延べ参加者数）	目標	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人(毎年度)										継続	45,506	45,616	維持	7,225	順調	指定管理者制度による民間活力を利用し、市民と自然とのふれあいの場となる環境学習施設として継続的な運営を行うとともに、生物の生息環境の保全にも配慮する。	順調	市民と自然のふれあいを推進するため、市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。 響灘ビオトープについては、市民と自然とのふれあいの場として、環境学習の場を提供するとともに、生物の生息環境の保全にも配慮する。
							実績	2,500 人																					
							達成率	125.0 %																					
VI-4-(1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	41	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	目標	904,000 本	937,000 本	970,000 本	累計100万本植樹(R6年度)	継続	14,013	12,504	減額	16,300	順調	自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠である。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行いながら、継続して市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。なお、市民との協働による事業の効率化を図り、一部取組のコスト削減を行った。 また、COP15や次期生物多様性国家戦略の策定など国内外の動きを踏まえ、本市戦略の改訂作業に着手する。	順調	市民と自然のふれあいを推進するため、市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。 響灘ビオトープについては、市民と自然とのふれあいの場として、環境学習の場を提供するとともに、生物の生息環境の保全にも配慮する。									
							実績	750,223 本																					
							達成率	83.0 %																					
						自然環境保全活動参加者数（イベント等の延べ参加者数）	目標	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人(毎年度)										継続	45,506	45,616	維持	7,225	順調	指定管理者制度による民間活力を利用し、市民と自然とのふれあいの場となる環境学習施設として継続的な運営を行うとともに、生物の生息環境の保全にも配慮する。	順調	市民と自然のふれあいを推進するため、市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。 響灘ビオトープについては、市民と自然とのふれあいの場として、環境学習の場を提供するとともに、生物の生息環境の保全にも配慮する。
							実績	2,500 人																					
							達成率	125.0 %																					

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
VI-4- (2)-① 生活環 境保全 対策の 推進	42	③ ⑥ ⑪ ⑫	不法投棄防止 事業	産業 廃棄 物対 策課	市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視パトロール、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処する。	廃棄物の不法投棄 件数（単年度）	1,100件 (H26~ 30年度 の平均 値)	目標 1,100件 以下	実績 696 件	達成率 136.7 %	1,100件 以下 (R2年度 以降毎 年度)	継続	15,979	14,252	減額	11,650	大変 順調	廃棄物の不法投棄件数は、ピーク時に比べて減少しているものの、依然としてみられることから、これまでの取組を継続し、高い抑止効果のある監視カメラの新規拡大、更新及び設置場所の見直しを行い、不法投棄関連情報を積極的に集め、早期発見・早期撤去に努めることで、不法投棄の長期化・拡大化を阻止する。		
	43	③ ⑪ ⑫	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視 課	大気汚染防止法第22条の規定に基づく大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センターと市内に設置した常時監視測定局から成る測定網の整備・保守を行う。常時監視結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の現状把握に努める。	大気環境の適正な 把握	—	目標 —	実績 —	達成率 —	大気環 境の適 正な把 握	継続	13,474	13,474	維持	6,075	順調	法令に基づき、市内大気環境の状況を正確かつ切れ目なく監視する必要があるため、今後も、監視システムの適正な保守・維持管理を継続する。		
	44	③ ⑥ ⑪ ⑫	環境対策事業	環境 監視 課	環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動の監視測定（環境モニタリング）などを行い、環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業を対象に、環境モニタリング結果等を共有し、環境保全を一層促進するため、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、また不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施する。	現状の環境を保全	—	目標 —	実績 —	達成率 —	現状の 環境を 保全	継続	47,947	46,161	維持	8,325	順調	大気、水質、騒音、振動について、モニタリング計画を立て、測定を継続し環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業に対して環境保全に関するセミナーを開催することで、市内の環境に対する理解を促進するとともに、大気汚染や騒音などについて事業者の自主的な取組を促す。	不法投棄防止に向け、監視パトロール等を継続するとともに、不法投棄発生場所情報等を参考に、監視カメラの設置場所の見直し及び老朽化による倒壊等の事故を未然防止するため、設置年数の古いカメラの更新を行う。 また、継続して測定網の保守、計画的なモニタリングを行い、環境質の現状把握、維持・向上に努める。	
					企業の法令順守の 徹底	—	目標 改善命令 0件	実績 0 件	達成率 —	改善命 令 (毎年 度)										

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標	
VI-4-(2)-② 自動車 環境対策の推進	45	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰	地球温暖化対策推進事業	グリーン成長推進課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	ノーマイカーデー実施によるCO2削減量（単年度）	200+ (H26年度)	目標	前年度(207+)水準を維持	前年度水準を維持	前年度水準を維持	前年度水準を維持（毎年度）	継続	7,846	7,533	維持	3,650	大変 順調	市民や事業所の自主的な行動を促し、ライフスタイルの変革を後押しするとともに、環境省の取組と連携した様々な啓発事業を展開し、本市における地球温暖化対策を推進する。	順調	市民や事業所の自主的な行動を促し、ライフスタイルの変革を後押しするとともに、環境省の取組と連携した様々な啓発事業を展開し、本市における地球温暖化対策を推進する。 水素ステーションの設置については、コストやFCV普及台数等の様々な課題があり、全国的にも目標の8割程度にとどまっている状態である。
								実績	284	+											
VI-4-(2)-② 自動車 環境対策の推進	46	⑦ ⑨ ⑬	水素エネルギー社会構築推進事業	グリーン成長推進課	水素利用の拡大方策、水素エネルギービジネス実現に向けた仕組みづくりの検討を行う。 また、水素エネルギーの社会への浸透を目指し、「本市の先進的な取組」や「水素エネルギーが身近なものであること」を市民に理解してもらえよう啓発を実施する。	水素ステーションの設置件数(累計)	1箇所 (H26年度)	目標	5 箇所	5 箇所	5 箇所	R6年度までに5箇所	継続	8,650	8,337	維持	4,650	順調	水素ステーションの設置については、コストやFCV普及台数等の様々な課題があり、全国的にも目標の8割程度にとどまっている状態である。 水素ステーションの普及には、水素需要量の拡大が必要なことから、1台当たりの水素消費量が多いFCトラック等の導入について、物流事業者等との検討を進める。 また、市民へのPR、イベント出展、視察対応を強化し、本市の先進的な取組を効果的にPRし、水素エネルギーの社会的浸透を目指す。	順調	市民・物流事業者へのPR、イベント出展、視察対応を強化し、本市の先進的な取組を効果的にPRし、水素エネルギーの社会的浸透を目指す。
								実績	3	箇所											
VI-4-(2)-③ 事業者の公害防止に対する環境管理の強化	47	③ ⑥ ⑪ ⑫ ⑭	工場・事業場監視事業	環境監視課	市内の工場・事業場に対し、大気汚染防止法・水質汚濁防止法等に基づいて、立入検査及び排ガス・排水中の規制項目に関する測定を実施し、事業者の環境法令の遵守を監視するとともに、環境管理の取組の促進を図る。また、市民からの公害関係苦情・要望を受け、発生源に対する指導を行う。	公害に関する苦情・要望件数（単年度）	243件 (H26年度)	目標	300件以下	300件以下	300件以下	300件以下（毎年度）	継続	24,688	21,373	減額	38,575	大変 順調	排ガス・排水等の測定計画の効率化により予算の見直しを実施した。 工場・事業場への立入検査や行政測定を継続実施することで、事業者の環境管理の取組を促進させることにより、公害の未然防止に努める。	大変 順調	排ガス・排水等の測定計画の効率化により予算の見直しを実施した。 工場・事業場への立入検査、測定などを継続実施するとともに、市民からの公害に関する苦情・要望を処理することで、快適な生活環境の確保を図る。
								実績	218	件											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
VI-4-(2)-④ 越境大気汚染 対策の 推進	48	③ ⑪ ⑫	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視 課	大気汚染防止法 第22条の規定に基 づく大気汚染状況 の常時監視を行う ため、公害監視セ ンターと市内に設 置した常時監視測 定局から成る測定 網の整備・保守を 行う。常時監視結 果を本市の環境保 全の推進に役立て るとともに、大気 環境の現状把握に 努める。	大気環境の適正な 把握	—	目標 —	—	—	—	—	—	6,075	順調	法令に基づき、市内大気環 境の状況を正確かつ切れ目な く監視する必要があるため、 今後も、監視システムの適正 な保守・維持管理を継続す る。	順調	計画通り測定網を保守し大 気環境の適正把握に努めると ともに、課題解決に向け、保 守の方法について見直しを行 う。	
VII-1- (3)-① 環境国際 協力の 推進	49	⑫	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	途上国技術者を 受け入れる国際研 修や経験豊かな市 内企業技術者等を 諸外国都市に派遣 し、現地で相手都 市も主体的に関 わった実践的な技 術指導を実施す る。 また、国内外の 関係機関と協働・ 連携した調査、情 報収集や発信を行 うとともに、各種 都市間ネットワーク を活用したプロ ジェクトを実施す る。更には市内企 業や国際機関等と 密に連携して、協 力対象国や都市の 「緑の成長」にも 資する環境国際協 力を旨とする。	戦略的環境国際協 力事業の件数 (累計)	6件 (H26 年度)	目標 14 件	15 件	15 件	—	—	—	6,650	順調	国や国際機関等の補助金も 活用しながら、引き続き事業 を推進する。	順調	KITAやJICAなど関係機関と 連携し、国や国際機関等の補 助金も活用しながら、引き続 き研修受け入れや派遣指導、 環境に関する技術・社会シス テムの輸出など、環境国際協 力を推進する。	
						達成率	100.0 %	—	—	—	—	—	—	—	—	—			—
50	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯	<新>環境国 際推進事業	環境 国際 戦略 課	アジアカーボン ニュートラルセン ターを中核とし て、環境に関する 多様な技術や社会 システム等を海外 に輸出すること で、地域経済の活 性化を推進する。 また、環境人材育 成に係る研修の誘 致活動や研修の実 施を通じて、アジ ア諸都市における 更なるビジネス案 件の創出を目指 す。	アジア地域での CO2排出量を削減	本市CO2 排出量 1,835万 t (H25 年度)	目標 —	—	—	単年度目標 設定なし	—	—	—	—	—	「アジアの環境人材育成拠 点形成事業」と「アジア低炭 素化センター推進事業」を統 合し、「環境国際推進事業」 として実施する。 KITA・IGES等の関係機関と 密に連携しながら、事業実施 や案件発掘に係る協議を行 い、市内企業の受注拡大を目 指すほか、環境人材育成に係 る研修誘致や研修実施を通じ て更なるビジネス案件の創出 を図る。	—	—	
					アジアの環境人材 育成のための研修 員等の受講者数 (単年度)	1,209人 (H26年 度)	目標 —	—	—	460 人	—	—	—	—	—	—	—	—	—

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標		
VII-2- (1)-① アジア 低炭素 化セン ターを 核とし た都市 インフ ラビジ ネスの 推進	51	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮	<新>環境国 際推進事業	環境 国際 戦略 課	アジアカーボン ニュートラルセン ターを中核とし て、環境に関する 多様な技術や社会 システム等を海外 に輸出すること で、地域経済の活 性化を推進する。 また、環境人材育 成に係る研修の誘 致活動や研修の実 施を通じて、アジ ア諸都市における 更なるビジネス案 件の創出を目指 す。	アジア地域での CO2排出量を削減	本市CO2 排出量 1,835万 t (H25 年度)	目標 実績 達成率				単年度目標 設定なし	H25年度 比75% 削減 (R12年 度)	—	—	23,180	—	66,650	—	「アジアの環境人材育成拠 点形成事業」と「アジア低炭 素化センター推進事業」を統 合し、「環境国際推進事業」 として実施する。 KITA・IGES等の関係機関と 密に連携しながら、事業実施 や案件発掘に係る協議を行 い、市内企業の受注拡大を目 指すほか、環境人材育成に係 る研修誘致や研修実施を通じ て更なるビジネス案件の創出 を図る。		
	52	⑨ ⑫ ⑭ ⑮	海外における カーボン ニュートラル 促進事業	環境 国際 戦略 課	本市がネット ワークを有するア ジア諸都市におい て、温室効果ガス 排出量削減につな がるプロジェクト を実施すること で、海外における カーボンニュート ラルを促進すると ともに、市内企業 の海外ビジネス展 開やGX（グリーン トランスフォー メーション）を支 援することで、市 内における「経済 と環境の好循環」 を一層加速させる ことを目的とした 事業展開を行う。	対象地域における パイロット事業着 手数 ※中期目標改訂	—	目標 実績 達成率	4 件 5 件 125.0 %	6 件	8 件	8件(R5 年度)	拡大	11,000	9,200	減額	22,000	大変 順調	廃プラ対策プロジェクトを 中心とした既存事業を拡充 し、温室効果ガス排出量削減 につながるプロジェクトも含 めた事業展開を行うことで、 環境インフラ技術の輸出促進 とSDGs推進先進都市としての ブランド力向上を目指す。 【中期目標の変更内容】 対象地域におけるパイロッ ト事業着手数について、順調 に推移しているため、目標値 を「令和4年度までに6件」か ら「令和5年度までに8件」に 変更する。	順調	KITAやJICAなど関係機関と 連携し、国や国際機関等の補 助金も活用しながら、引き続 き研修受け入れや派遣指導、 環境に関する技術・社会シス テムの輸出などを推進する。 海外渡航ができない場合は積 極的にオンラインを活用し、 事業を進めていく。	
	53	⑨ ⑫ ⑭ ⑮ ⑰	サステナブル 環境ビジネス 展開事業	環境 国際 戦略 課	「SDGs推進」や 「サーキュラーエ コノミー推進」に 適応する技術や製 品を持つ市内中小 企業等の海外展開 を支援する。これ により、循環型社 会及び脱炭素社会 の実現に貢献する と同時に、本市の 環境ビジネスの 「ブランド力の向 上」と北九州市 SDGs戦略の一つで ある「技術と経験 を活かした国際貢 献の推進」を実現 する。	海外での実証事業 等の進出数（単年 度）	5件 (R02年 度中小 企業ア ジア環 境ビジ ネス展 開支援 事業の 実績)	目標 実績 達成率	2 件 2 件 100.0 %	3 件	3 件	3件 (R5年 度)	継続	18,000	14,500	減額	2,700	順調	引き続き、市内中小企業 等の環境関連技術・製品の海 外展開を支援する。			